

町田 健

学校名：横須賀市立田浦小学校 担当教科：2年生担任

1. 今回のカンボジア研修における目的やねらい

私の周囲にもさまざまな国にルーツを持つ子が数名おり、また、小学校の学習に英語活動が入り、これまで以上に「異文化理解」の重要性が増してきているように常々感じている。ただ、教える教師自身を得る情報は、新聞や本、テレビなどからが多く、そこに生きる人々の思いや、脚色のないその国のありのままの文化とその魅力を知るにはどうしたらよいか、私は考えてきた。今回の研修では、現地の人々と話す機会があるので、児童のいる「教室」と「カンボジア」を結びつけることを一番のねらいとした。

また、内戦後のカンボジアがどのように復興してきたのか、また、そこで暮らすカンボジアの人々がどのような生活をし、思いをもっているのかを見て・聞いて・感じ、子どもたちが惹かれるような「カンボジアの魅力」をたくさん発見し、子どもたちに返したいと考えていた。

2. 目的やねらいの達成度

カンボジアで活動するNGOの様子を数多く見学し、活動の目的や携わる人々の願いに触れることができた。悲しい歴史の傷跡や貧富の格差がある社会の中で、カンボジアの人々は力強く前向きに生きていることに心打たれた。私は、「教室とカンボジアを結びつける」を大きな目的として参加した。国内で子どもたちに書かせたワークシートをカンボジアの子どもたちに紹介することは、交流会の流れの関係でできなかったが、カンボジアの子どもたち一人ひとりが大切にしているもの、将来の夢などをインタビューすることでできた。また、活気に満ち溢れる街、笑顔が絶えない人々の表情などは日本ではあまり見られなくなってしまったものであり、それはカンボジアの魅力のひとつであると感じた。教室に戻り、持ち帰った素材を子どもたちと見ながら多文化共生を進めたい。

3. カンボジアから学んだこと

辛く悲惨な内戦を経験したカンボジアの人々であるが、出会う人たちみんな笑顔で私たちを迎えてくれた。「物事を暗く考えすぎず、前向きに努力する姿勢」が大切なのだと改めて感じた。

また、今回の研修で「援助」についても改めて考える機会となった。カンボジアには、復興に向けて多くのNGOや支援の手が差し伸べられている。それらの活動に支えられ、識字率が上がり、インフラ整備が進み、町が落ち着きを取り戻してきていた。しかし、「学校を建てても、教師不足で使われないこともある。」「援助を受けられない人たちにとって、援助を受けている施設は妬みの標的である。」など、援助=そこに住む人たちを支える に必ずしもならないこともわかった。

その地の人たちが「何を必要としているのか」を、支援の前によく考える必要があると思った。

4. 研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今、私が担任する学級が2年生であるため、歴史等の暗い面ではなく、美しい風景、遊び、音楽などからカンボジアの良さ・魅力を子どもたちと共に味わいたいと考えている。

また、担任をする子どもたちだけでなく、他学年の子どもたちとも集会、クラブ活動などを通じて紹介し、異文化理解を進めていきたい。

5. 研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

研修のスケジュールは大変充実していたが、反面、心身ともに辛いときもあった。しかし、たくさんのNGOの活動や学校を訪問することができ、活動の様子や課題となっていることなどをたくさん聞くことができたので、子どもたちと共有したい「多文化理解の視点」「援助の課題」などを多

く得ることができたのが嬉しかった。これまでは想像でしかなかったことも、そこに生きる人々とその生活に確かに会うことができた。それが何よりも大きな私自身の成果だった。

移動中の車内での意見交換が非常に有意義であった。それぞれの違う視点や捉え方からの感想を聞くことができ、自分自身の考えがさらに深まった。

6. その他研修全般を通じての感想・意見など

研修国での役割分担を行ったが、出発までに全員で打ち合わせする機会が少ないため、現地での交流会の準備が十分にできなかった。また、担当同士での意思疎通も十分でないまま出発を迎え、現地で時間を取ることができず、それぞれの思いが先行する形で発表を迎えてしまったことが残念だった。発表の内容にも依るが、国内の事前研修で、交流会の内容や準備、練習の時間を積極的に取ればよかった。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

私は、今回の研修を通して、現地の実情を知ることができただけでなく、人脈・共に国際理解教育を進める仲間を得ることができた。

今回、ビデオ撮影などで、お話いただいたことを落としてしまうことがしばしばあった。記録も大切だが、自分の疑問に思っていることを積極的に相手に質問し、この素晴らしい機会を有効に使いたい。

